

大学院



博士前期課程
実践精神看護
金城 理香

私は、本学の第1期生として卒業後、短期間ですが総合病院で看護師として勤務の後、市町村保健師を経験しました。現在は、精神科病院に勤務しながら大学院に進学し、文化間保健看護領域、地域保健看護分野において実践精神看護（精神専門看護師を育成する科目：以下CNS科目とする）について学んでいます。

大学卒業時は理想を抱いて就職しましたが、実際に勤務してみると、自分自身の描いていた看護師像や学んだこととの大きなギャップに疑問を感じ悩むことが多かったものです。大学で学んだ看護理論や看護技術等々を実践の場にもっと結び付けることができないうかと考えていた矢先、CNS科目の開講と社会人長期履修制度を知りました。進学した場合、仕事・家庭・学業の両立が自分に出来るのだろうかと不安もありましたが、現場での実践を深めていきたいという思いから進学を決意しました。実際、臨床での勤務を続けながら夜間や休日に大学院で学ぶということは多忙を極めるものですが、同期の院生・指導教員とのディスカッションや情報交換を行うこと

とで日頃の看護実践を振り返り、これまでの疑問や悩みを整理しています。

このように教員のスーパーヴァイズを受け、学友と支え合いながら3年目を迎えることが出来ました。現在は、精神科臨床における自己の課題を解決すべく課題研究に取り組んでいます。修了後は、CNSの卵として積極的に、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究に携わっていきたいと思います。



大学院博士後期課程
平良 美栄子

「この感覚を臨床の看護師と分かち合いたい。」人事異動で看護部付け専任教育担当看護師として配属され、日々の業務に忙殺されていた私の前に、米国のCNS看護師（恩師）との出会いがあった。恩師との出会いは、私自身の実践してきた看護を振り返り、根拠に根ざした看護を実践する必要性を再認識させられたとともに、学ぶ楽しさを実感する日々でした。

数年間、教育担当者として働く中、看護師らの成長や自分自身の変化から「人は成長する生きものである」ことを実感し、人間を扱う看護の奥深さ、看護の専門性について探求することを決意しました。大学院博士前期課程では「わかっているつもりでいた自分」と何度も対面し、ゆらぐ自分と戦いながら時に看護の奥深さにおぼれそうになりながらも魅了され続けました。

今回進学により博士後期課程へと進みますが、「根拠に即した看護の必要性」、「学ぶ楽しさを実感できる教育」、「人は成長する」という信念を拠り所にしつつ、さらなる看護の専門性の探求を継続し研究の成果を地域社会に還元し、看護の発展に携わっていきたいと考えます。

沖縄県立看護大学大学院年度別入学生状況

単位(人)

		出身		性別		小計
		県内	県外	男	女	
平成16年4月入学生 (1期生)	博士前期	5	1	5	1	6
	博士後期	2	0	1	1	2
平成17年 (2期生)	博士前期	5	4	8	1	9
	博士後期	0	2	2	0	2
平成18年 (3期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	2	0	2
平成19年 (4期生)	博士前期	7	0	6	1	7
	博士後期	0	2	2	0	2
平成20年 (5期生)	博士前期	5	2	7	0	7
	博士後期	2	1	3	0	3
平成21年 (6期生)	博士前期	8	0	7	1	8
	博士後期	4	0	3	1	4
平成22年 (7期生)	博士前期	9	0	9	0	9
	博士後期	3	0	3	0	3
平成23年 (8期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	1	1	2
合計	博士前期	51	7	54	4	58
	博士後期	13	7	17	3	20

※平成21、22年度は、大学院GPによる入学者を含む

